

創刊にあたって

岡山県立大学学長 辻 英明

近年、我が国では少子・高齢化およびグローバル化の進展により社会構造は大きく変化するとともに、AI 及び IoT の発展に伴い第4次産業革命が進行しています。このような変化を受け、今日の大学には自立性、協働性及び創造性のある人材育成が強く求められています。

岡山県立大学は、岡山県下で活躍できる優秀な人材を輩出することを第1の教育目標に置いて大学改革を推進しています。また、平成27年度から本学は文部科学省の地方創生推進事業（COC+）である「地域で学び、地域で未来を拓く生き生き人材育成事業」にも取り組み、本事業は岡山県の創生に貢献するとともに、本学の学生が地域社会との連携を通じて、課題の発見・解決する能力、コミュニケーション力ならびに人間力の醸成という新しい地域連携教育を本学に提供しています。現在、本学の教育システムは本学で実施する教養教育と専門教育ならびに学外で実施する地域連携教育から構成されていますが、本学の教育目標を実現するためには、それぞれの教育の質の向上と連携が望まれます。

今回、岡山県立大学教育研究紀要が発刊されますが、この発刊は時宜を得たものであります。本紀要には、教養、地域連携及び専門教育に関する研究論文が掲載されますことから、本紀要の刊行は本学の大学改革を促進するものであり、今後、本学の教育の質の向上に大きな役割を果たすことが期待されます。

岡山県立大学教育研究紀要創刊の意義について

岡山県立大学副学長
（教育研究担当）吉原 直彦

このたび、岡山県立大学における全学的な教育研究の取組を教育研究紀要としてまとめ発刊の運びとなりました。発刊までの経緯には若干、紆余曲折がございましたが、当初のモチベーションに思いをいたすとき、次の点にその意義が認められると考えます。

(1) 全学的な教育方針を念頭に、教育に関する研究の成果を PDCA の一環として明らかにすること。(2) 成果は大学のメンバーをはじめ、他の組織のメンバーと共有できるものとする。こと。(3) 共有された成果から教育研究上の有用なテーマや手法が導かれることにより、大学教育に携わる人々にとって汎用性のある知見として、何らかの形で教育改善に活かされること。

以上の観点から (1) については、ポリシー指向型の教育が求められる今日、抛り処が明確であると考えます。(2) については、公表により、学内や他の研究機関との連携による研究推進の機運が期待されます。(3) については、FD 本来の目的に適うものと考えます。

創刊号のコンテンツは、実学を標榜する本学の特性から、執筆者各々の専門性に基づくものが多くみられますが、「共有」の観点から、スペシャルティの探求の向こうにジェネラリティ（汎用性）が見えることを期待しています。また今後は、教育それ自体が研究対象であるようなコンテンツがより多く寄せられることを期待しています。

岡山県立大学教育研究紀要の創刊

—本学における共通教育の振興を目指して—

共通教育部会長 末岡 浩治

岡山県立大学共通教育部では、本学の建学理念である「人間尊重と福祉の増進」を念頭においた教養教育科目群を編成するとともに、教育研究理念である「人間・社会・自然の関係を重視した実学の創造による地域貢献人材の育成」を実現するための教育を行っています。共通教育の目標として(1)基礎的な知識を体系的に理解する姿勢を形成すること、(2)生涯にわたる知的活動あるいは社会生活において必要とされる論理的思考力・問題発見解決力・批判力・汎用的技能を習得すること、(3)地域連携等を通じた社会人基礎力や課題解決力を習得すること、(4)自己の人間の成長あるいは将来に継続する学習意欲の喚起を専門分野にとらわれることなく涵養すること、としています。

このたび、本学における共通教育のさらなる振興を目的の1つとして、岡山県立大学教育研究紀要を創刊することになりました。それに伴い、共通教育部でこれまで発刊していた「語学教育推進室紀要」を発展的に廃刊し、その役割を本紀要に含めることと致しました。本紀要は本学の共通教育に関する教育研究成果を発表する場として活用されるとともに、本学における「教育の質の向上」に寄与すると確信しています。

岡山県立大学教育研究紀要による

本学の教育と研究の一元化への期待

大学教育開発センター長 田内 雅規

この度、大学教育開発センターから、本学の共通教育と専門教育における教育研究の紀要が創刊されることになりました。本紀要は、平成26年のセンター開設以来、構想してきた本学の教育に係る研究論文掲載や本学にとって必要な国内外の教育関連情報の提供を行うことに加え、共通教育部で発刊していた「語学教育推進室紀要」を統合し、さらに教養科目の専門研究を掲載することを目的に発刊されるものです。

大学の本分は敢えて言うまでもなく教育と研究であり、この両輪が上手く回転してこそ大学の発展が可能になります。その様な意味で本紀要は従来、表に出る機会が少なかった本学の教育の側面に光が当てられる良い機会になるのではないかと期待されます。また、教養教育での学びと専門教育における学びそれぞれの重要性は認識されているところですが、両教育の連関や連携性となるとなかなか実質的なものになっていないというのが実状かと思われまふ。本学が平成28年度から導入している地域連携教育は重要な懸け橋の一つと考えられ、本紀要は全学にその役割や意義を知らせるための媒体となることが期待されます。

本紀要が学内及び学外への情報発信メディアとして機能するためには本学教職員の皆さんからの積極的な投稿が最も重要な鍵となります。発展にご尽力いただければ幸いです。